

感染管理は誰のため？

近年、わが国では人生 100 年時代といわれています。厚生労働省の発表によると、平均寿命は昭和 22 年（1947 年）では男性 50.06 年、女性 53.96 年でしたが、平成 29 年（2017 年）では男性 81.09 年、女性 87.26 年となっています。これは、以前のような感染症による死亡が減少し（平成 12 年では 2.1%）、悪性新生物（がん）や心疾患、脳血管疾患などの慢性疾患である生活習慣病がその多くを占めるようになったためと考えられます。さらに、平成 30 年の統計調査では、感染症および寄生虫症による死亡総数が占める割合は 1.8% であり、悪性新生物 27.4%、心疾患 15.3%、脳血管疾患 7.9% と比較すると、いかに日本人の感染症による死亡が減少したかを示しています¹⁾。

一方、2017 年に菌血症の発症リスクに注目した、「感染性心内膜炎の予防と治療に関するガイドライン」が作成されています²⁾。そのなかで「感染性心内膜炎（IE infective endocarditis）とは、弁膜や心内膜、大血管内膜に細菌集簇を含む疣腫（vegetation）を形成し、菌血症、血管塞栓、心障害などの多彩な臨床症状を呈する全身性敗血症性疾患である」と定義されており、歯科関連については、「NBTE（nonbacterial thrombotic endocarditis：非細菌性血栓性心内膜炎）を有する例において、歯科処置、耳鼻咽喉科的処置、婦人科的処置、泌尿器科的処置などにより一過性の菌血症が生じると、NBTE の部位に菌が付着・増殖し、疣腫が形成されると考えられている」としています。さらに、菌血症を起こす歯科処置として、「抜歯・出血を伴う口腔外科処置やインプラント治療・スケーリング・感染根管治療」と具体例を挙げています（表 1）。

わが国では高齢化が進み、糖尿病や心疾患などの易感染性疾患を有する患者さんたちが増え、上記のような処置が日常的に行われます。感染をいかに防ぎ、患者さんと医療従事者の安全性を確保できるかという観点から臨床行為を見つめることが、よりいっそう重要な時期にきていると思われます。そのために必要な感染管理の知識を、本書でいっしょに再確認&アップデートしましょう。

2019 年 11 月
柏井伸子

表 1 IE（感染性心内膜炎）高リスク患者における、各手技と予防的抗菌薬投与に関する推奨とエビデンスレベル（参考文献²⁾より引用改変）

抗菌薬投与	状況	推奨クラス	エビデンスレベル
予防的抗菌薬投与を行うことを強く推奨する	<ul style="list-style-type: none"> 歯科口腔外科領域：出血を伴い、菌血症を誘発するすべての侵襲的な歯科処置（抜歯などの口腔外科手術、歯周外科手術、インプラント手術、スケーリング、感染根管処置など） 耳鼻科領域：扁桃摘出術、アデノイド摘出術 心血管領域：ペースメーカーや植込み型除細動器の植込み術 	I	B
抗菌薬投与を行ったほうがよいと思われる	<ul style="list-style-type: none"> 局所感染巣に対する観血的手技：膿瘍ドレナージや感染巣への内視鏡検査・治療（胆道閉塞を含む） 心血管領域：人工弁や心血管内に人工物を植え込む手術 経尿道的前立腺切除術：とくに人工弁症例 	II a	C
予防的抗菌薬投与を行っても構わない。ただし、IE の既往がある症例には予防的抗菌薬投与を推奨する	<ul style="list-style-type: none"> 消化管領域：食道静脈瘤硬化療法、食道狭窄拡張術、大腸鏡や直腸鏡による粘膜生検やポリープ切除術、胆道手術 泌尿器・生殖器領域：尿道拡張術、経膈分娩、経膈子宮摘出術、子宮内容除去術、治療的流産、人工妊娠中絶、子宮内避妊器具の挿入や除去 心血管領域：心臓カテーテル検査、経皮的血管内カテーテル治療 手術に伴う皮膚切開（とくにアトピー性皮膚炎症例） 	II b	C
予防的抗菌薬投与を推奨しない	<ul style="list-style-type: none"> 歯科口腔外科領域：非感染部位からの局所浸潤麻酔、歯科矯正処置、抜髄処置 呼吸器領域：気管支鏡、喉頭鏡検査、気管内挿管（経鼻・経口） 耳鼻科領域：鼓室穿孔時のチューブ挿入 消化管領域：経食道心エコー図・上部内視鏡検査（生検を含む） 泌尿器・生殖器領域：尿道カテーテル挿入、経尿道的内視鏡（膀胱尿道鏡、腎盂尿管鏡） 心血管領域：中心静脈カテーテル挿入 	III	B

【参考文献】

- 厚生労働省：平成30年（2018）人口動態統計月報年計（概数）の概況。 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai18/dl/gaikyou30.pdf#search>
- 合同研究班参加学会（編）：感染性心内膜炎の予防と治療に関するガイドライン（2017年改訂版）。 http://www.j-circ.or.jp/guideline/pdf/JCS2017_nakatani_h.pdf#search